

そよかぜ 2月園便り

令和5年2月1日（水）

西東京市立そよかぜ保育園

1月の末になって、大寒波が襲来しました。大人は「寒い寒い」と肩をすくめて歩いていますが、子どもたちは元気いっぱい。ちょっとでもお日様が出ると、外に出て走り回っています。これから雪は降るのでしょうか。「雪遊び」に期待を膨らませつつ、今は容器に水を張って氷作りを楽しんだり、霜柱をザクザクと踏みしめて冬の自然を満喫中です！

いよいよ年長さんは卒園が目前となりました。今一度「自分のことは自分でやる」という**身辺自立**の部分の軸にして「最後までやりきること」や「自分の思いを相手にしっかり伝えること」など、更に経験を重ねていきたいと思います。

さて、年長さんは12月に「**森は生きている**」の観劇に行ってきましたが、これも私たちが子どもたちにぜひ経験してほしいと思っている取り組みの一つです。

コロナ禍もあり、3年ぶりの実施となりました。（ホームページの12月30日付けのブログ参照）観劇後、子どもたちはすっかりお話の世界に魅了され、早速「劇ごっこ」を展開。それぞれが演じてみたい役になって、躍動しています。元々歌をうたい、お話の読み聞かせをしているので、観劇をしたことでより一層イメージが形となって子どもたちの中に広がったのだと思います。

こんな話をしていると、皆さんも「どんな物語なんだろう…」と興味が湧いてきたのではないのでしょうか。ストーリーを書いてしまうと楽しみがなくなるので、ぜひぜひ読んでみて下さい！そして、この物語を通して子どもたちはどんなことを感じているのか、また私たちはどんなことを伝えたいのか…一緒に思いを巡らせてみませんか。感想など聞かせていただけると嬉しいです。

私たちが日々保育の中で取り組んでいることには全て意味があります。

「**どんな姿で卒園してほしいのか、どんな子に育ってほしいのか**」を職員皆で共有し、その先に大人になって壁にぶつかったり、何かを選択しなければいけない時に保育園時代に経験したこと、そして培った生活する力や考える力が必ずや道標になることを信じて、これからも保育をしていこうと思います。

まずは「**節分**」にて、それぞれ一つずつ大きいクラスになって元気いっぱいに過ごせるように、鬼を追い払いましょう。既に各クラスのちびっこ鬼たちが園内を練り歩いています。

毎年この風景を見ると、冬から春への季節の移ろいを感じます。
冒頭の「冬の自然を満喫」した後、春の訪れを楽しみに待つことにしましょう。

クラス通信



ぐっと冷え込む日が増えてきましたが、日差しが暖かい日には散歩に出掛けています。散歩先では**霜柱**や**氷**を見つけ、触ったり踏みしめたりして冷たさを感じていますよ。

先日行ったいこいの森公園では、**梅の花**がちらほら咲き始めていました。きれいだね〜という大人の声に「あ!」「あった〜」と花を指差して、小さな春の発見を楽しむ子どもたちです。寒さに負けず、残り少ない冬を元気いっぱい過ごしていきたいと思います。



部屋で遊ぶことが多かった1月ですが、散歩先でやっていた“しっぽ取り”“むっくり熊さん”“かごめかごめ”で身体を使って遊びました。

鬼のお面をつけ“山からおーにが降りてきた どんどこどん どんどこどん”と声を出しながら廊下を練り歩く姿は堂々とした足取りですが、他のクラスに入ると“鬼は外”と声が飛んできて、固まってしまい早々に退散。また、部屋に鬼（他クラスの子）が来ると壁に並んでしゃがみ、顔を隠し、指の間からちょっぴり覗いて見ていますよ。

節分が過ぎると季節は春です。

「元気に過ごせますように」と鬼退治し、天気の良い日は春を探しに散歩に出掛けていきます。



寒さが厳しくなり室内で遊ぶことが多かった先月ですが、園庭で遊ぶと「**三輪車**やりたい!」と三輪車へ一目散に走るすずめ組。ペダルに足を乗せ“んっ”と力を入れてこごとしたり、足で蹴って進んだり、スムーズにペダルをこいだり…とそれぞれですが大人や友達と一緒に楽しんでいます。遊ぶ中で、手と足を使いハンドルやペダルを上手に操作できる姿が増え、止まったり向きを変えたりして友達とぶつからないように考えたり、3、4人で列になって走ったりなど大人や友達とやり取りをしながら遊んでいます。

今月もリズムで体を動かしてから園庭や散歩など戸外で元気に遊んでいます。



寒さがまた一段と増す時期になりましたね。そんな寒さにも負けずに、散歩に出かけると元気いっぱい走り回っています。最近のお気に入り、**“氷鬼”**です。子どもたちなりに寒さを意識してるんですかね？鬼ごっこをやっている時に「助けて〜」と声が上がると、鬼をよけながら頑張って助けに行ったり、鬼が近くにいてもつかまらないように気を付けながら、助けるために突進していく子どもたち。集団遊びも楽しめるようになってきました。

鬼のお面が出来て豆まきごっこが始まりました。**小さな鬼**たちとのやり取りも楽しみたいと思います。



室内で柔軟、リズム遊びを通し、徐々に身体を暖めてから、お散歩へ。みんな身体がポカポカになっているので、「ジャンパーいらないんじゃないの??」と言いつつ、渋々上着に袖を通しています。

公園では“**風揚げ**”でたくさん走りました。全力で走って風を受け、揚げていたのですが、たまたま風のベースとなっている紙が折れたことによって、より風を受けて浮かんでいることに気づき、「ここ折ればもっと飛ぶんじゃないかな?」とその場でしゃがんで折り始めていました。

また、イチョウ公園の池には分厚い氷ができていて、恐る恐る足を乗っけて少し体重をかけてみると、寒さが厳しいなりに楽しいことや発見もたくさん。ですが、“**鬼は外～ 福は内～♪**”と歌いながら、公園への道を梅の花を見ながら春も待ち遠しいつばめ組です。



午睡無しの生活にもだんだんと慣れて来て、夕方でもお友達と一緒に縄跳びをしたり、コマを回したりして元気に過ごしています。お昼寝をしていた時間はお部屋で過ごすことが多く、最近は**鬼のお面**制作をしています。毎年飾られていた鬼のお面を、今度は自分たちが作る番となり、どんな顔にしようか、じっくり考えていました。出来上がった粘土の顔に、奉書紙という紙を貼り、“お面”になるように毎日毎日集中して貼り重ねていますよ。完成する日をお楽しみに！

まだまだ寒い日が続きますが、マラソンやリズムをして体を温めて、戸外に出て遊んでいきたいと思います。

＜つばめ組、はやぶさ組 1/27 味噌作り＞



<https://soyokaze-hoikuen.net/>

園行事の様子は HP 内 Blog を
ご覧ください。



2 月 園行事

3 日（金）節分の会

17 日（金）年長 交流保育

13 日（月）年長 藤井先生交流

21 日（火）栗本先生の体育遊び／避難訓練

15 日（水）布団乾燥

22 日（水）誕生会

寒仕込み 味噌づくり

今日は味噌づくりです。園庭に設えた釜戸から煙が立ち昇り始め、前日から浸け置き大きく膨らんだ大豆をグツグツ煮ていきます。吹き溢さないよう火加減に注意しながら煮ること3時間。後は余熱に任せてじっくり旨味を引き出す大事な時間。

お散歩から帰ってきた子たちがお味見。「美味しい！」笑顔がこぼれ、うれしい瞬間。

お昼寝後、エプロンに身を包んだ子どもたちの出番。柔らかくなった大豆をすりつぶします。ボールを抑える人 マッシャーで潰す人 共同作業は続きます。

《すり鉢をおさえてー》等と言われ、ゴマを搗ったり、合わせ味噌を作る等の手伝いをしたのは遠い昔の思い出です。今便利なものが多くなり、お手伝いの機会も少なくなっているのでしょうかね。

合わせておいた塩麴とすりつぶした大豆を大きなボールの中で混ぜ、ボール大の大きさに丸め味噌玉に。子どもたちの手で味噌玉は樽に投げ入れられ、「おいしくな一れ」と封印されました。

晩秋の頃までじっくりと発酵させて、食べる予定です。

同じように作っても微妙に違う仕上がりになる手作りの味噌。今年はどんなお味になるかなあ。

1300年余り前から賞味され、食生活を支えてきた味噌。

江戸時代には「医者にお金を払うより、味噌屋に払え」と健康増進効果が認められ、重宝された食品です。

「味噌」には味の素 命の素 美の素が含まれているとも言われ、万能薬のように大切に食べられてきました。タンパク質をはじめアミノ酸、ビタミンも豊富ですし、炭水化物や脂質、ミネラル、食物繊維等多くが凝縮され、栄養の宝庫ともいえます。大豆や米、麦などに塩と麴を加え発酵させて作る発酵食品は日本の伝統食で代表的な食べ物です。大豆のたんぱく質を消化しやすく分解した発酵食品。人にとって有効な微生物が働き、分解させ おいしさの素となるアミノ酸を作り出す麹菌。美味しさや保存性を高めるだけでなく、腸内環境を改善させ抗酸化作用等の健康効果をもたらすシンプルで合理的な味わい深い食品として欠かせない一品です。

豆腐やわかめ、ねぎ大根 油揚げ 季節の野菜を使った一杯の味噌汁

朝台所から 漂うみそ汁の匂いは 眠気が食欲に代りますね。

職員のつぶやき

生まれも、育ちも生粋の栃木っ子だった私は、大好きな地元、5年続けた園から離れ、新たな生活を4月から始めました。以前勤めていた園は、全園児で約180名のこども園でした。田舎だったこともあり、広い園庭と芝作りの園庭を子どもたちは裸足で駆け回り...といったそんな園でした。初めてしらうめ保育園に来て驚いたこと、それは子どもの少なさと園庭の狭さでした。この園庭でどのようにして遊ぶのだろうか?と思いながら、始まった私のしらうめ保育園生活です。いざ始まると、園庭では全身を使って泥んこ遊びを楽しみ、近くにはたくさんの公園があり、身体をたくさん動かし全力で遊ぶ子どもたちを見て、胸が躍る思いでした。東京なのに東京じゃないと思えるようなたくさんの自然に囲まれている地域、子どもたちの笑顔と活気であふれる園、優しい先輩方に支えられ、日々学びを深めている毎日です。そんな私の園生活もあっという間に1年が終わろうとしています。さらにしらうめ職員として成長できるよう雑草パワーで頑張りたいと思います。

羽村しらうめ保育園 田村 瑠梨菜

